

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.6.25 No. 233 連絡先 FAX 042-555-1911



CV-22 オスプレイの配備許すな！ 戦争法案廃案に！ 緊急抗議集会

6月21日の第75回横田基地撤去座り込み行動は、三多摩労連と共催の「横田基地へのCV22 オスプレイ配備許すな！戦争法案は廃案に！緊急抗議集会」になりました。

雨の中、500人が参加しました。三多摩労連の菅原議長と撤去の会の高橋代表が主催者あいさつ。経過と情勢報告を撤去の会の霍田事務局長。地元からの報告、東京地評、新日本婦人の会、三多摩法律事務所、三多摩健康友の会、民医連、都教組、平和委員会、横田基地公害訴訟団らから2分間の決意表明、共産党の白石たみお都議からは都議会の報告がありました。

集会後、参加者は国道16号を歩き第2ゲート前で左折、やなぎ通りで右折、福生駅前の西友の裏の公園で流れ解散しました。

デモ行進では団結コールを唱和、今時はシュプレヒコールとは言わないのですね。元気に声を上げました。



CV オスプレイ用の舗装強化か？ 30メートル四方のパッド多数の工事

5月18日付け FBO (Federal Business Opportunities) のページに、横田基地の駐機場などの舗装を強化する工事への入札を募集する公告が出ていたことが分かりました (右写真)。FBO は米国政府機関が発注する

FEDBIZOPPS.GOV
Federal Business Opportunities
Home Getting Started General Info Opportunities Agencies Privacy
Buyers: Login | Register Vendors: Login | Register Accessibility
U.S. ARMY
Y-FY15 Repair Apron, Repair Taxiway Hold Locations, and Construct Emergency Landing Pad, Yokota Air Base, Japan
Solicitation Number: W912HV15B0017
Agency: Department of the Army
Office: U.S. Army Corps of Engineers
Location: USACE District, Japan

る工事の受注の公平性を監理する組織です。工事内容は、主に3つあります。

1. 横田基地のエプロンAに30メートル四方のスペースを7機分確保し、その場所に機体止めを設置して、これまでの舗装をはぎ取ってやり直す。高温に耐える舗装にする。この場所では、電気、機械、構造的な作業は行わない。
2. 誘導路が滑走路とクロスする手前の待機場所として30メートル四方のパッドを計9か所設置する。また、エンジンをかけながら給油できる30メートル四方のスポットを2か所、Goffランプに設置する。現在の舗装をやり直し、表面にケイ酸ソーダによる表層剤を塗る。
3. B誘導路に沿って、30メートル四方の緊急着陸帯を2か所造る。現在の舗装をやり直し、機体止めを設置して、表面にケイ酸ソーダによる表層剤を塗る。

この新しい駐機場に停める機種は明記されていませんが、30メートル四方の大きさ、高温に耐える舗装など、オスプレイ (CV-22) の横田基地配備を前提とした工事であることは明らかでしょう。この入札応募の締め切りは、8月19日となっています。

ここは日本。アメリカに勝手に工事をやらせていいのでしょうか。

NO WAR 女の平和 国会包囲ヒューマンチェーン (No. 233 の裏面)

6月20日、戦争法案にレッドカードを突きつけようと、赤いファッションで1万5千人の女性たちが国会を包囲しました。

呼びかけ人の元中央大学教授の横湯園子さん、作家の渡辺一枝さん、音楽評論家の湯川れい子さん、学習院大学の青井未帆教授などの訴えとともに、子育て中の若いお母さんの発言もありました。

戦争法案と一体のCV-22 オスプレイ横田配備について、発言の場を得て、撤去の会の高橋代表は3分発言しました。(写真は青井教授)



翁長知事の平和宣言 (全文) 2015年6月23日 沖縄戦70年戦没者追悼式

70年目の6月23日を迎えました。私たちの郷土沖縄では、かつて、史上稀(まれ)に見る熾烈(しれつ)な地上戦が行われました。20万人余りの尊い命が犠牲となり、家族や友人など愛する人々を失った悲しみを、私たちは永遠に忘れることができません。

それは、私たち沖縄県民が、その目や耳、肌に戦(いくさ)のもたらす悲惨さを鮮明に記憶しているからであり、戦争の犠牲になられた方々の安らかであることを心から願い、恒久平和を切望しているからです。戦後、私たちは、この思いを忘れることなく、復興と発展の道を力強く歩んでまいりました。

しかしながら、国土面積の0.6パーセントにすぎない本県に、日米安全保障体制を担う米軍専用施設の73.8パーセントが集中し、依然として過重な基地負担が県民生活や本県の振興開発に様々な影響を与え続けています。米軍再編に基づく普天間飛行場の辺野古への移設をはじめ、嘉手納飛行場より南の米軍基地の整理縮小がなされても、専用施設面積の全国に占める割合はわずか0.7パーセントしか縮小されず、返還時期も含め、基地負担の軽減とはほど遠いものであります。沖縄の米軍基地問題は、我が国の安全保障の問題であり、国民全体で負担すべき重要な課題であります。

特に、普天間飛行場の辺野古移設については、昨年の選挙で反対の民意が示されており、辺野古に新基地を建設することは困難であります。そもそも、私たち県民の思いとは全く別に、強制接収された世界一危険といわれる普天間飛行場の固定化は許されず、「その危険性除去のため辺野古に移設する」、「嫌なら沖縄が代替案を出しなさい」との考えは、到底県民には許容できるものではありません。

国民の自由、平等、人権、民主主義が等しく保障されずして、平和の礎(いしずえ)を築くことはできないのです。政府においては、固定観念に縛られず、普天間基地を辺野古へ移設する作業の中止を決断され、沖縄の基地負担を軽減する政策を再度見直されることを強く求めます。

一方、私たちを取り巻く世界情勢は、地域紛争やテロ、差別や貧困がもととなり、多くの人が命を落としたり、人間としての尊厳が蹂躪(じゅうりん)されるなど悲劇が今なお繰り返されています。

このような現実にしっかと向き合い、平和を脅かす様々な問題を解決するには、一人一人が積極的に平和を求める強い意志を持つことが重要であります。

戦後70年を迎え、アジアの国々をつなぐ架け橋として活躍した先人達の「万国津梁」の精神を胸に刻み、これからも私たちは、アジア・太平洋地域の発展と、平和の実現に向けて努力してまいります。

未来を担う子や孫のために、誇りある豊かさを創りあげ、時を超えて、いつまでも子ども達の笑顔が絶えない豊かな沖縄を目指します。

慰霊の日に当たり、戦没者のみ霊(たま)に心から哀悼の誠を捧(ささ)げるとともに、沖縄が恒久平和の発信地として輝かしい未来の構築に向けて、全力で取り組んでいく決意をここに宣言します。

2015年6月23日 沖縄県知事 翁長雄志